

接頭辞 RE の本質的機能

——主体移動動詞 *aller*, *monter*, *partir*, *passer*, *venir* の場合——

佐々木 香 理

1. はじめに

本研究の目的は、対象移動動詞 *ramener*, *rappporter*, *remmener*, *remporter* の RE の機能について論じた佐々木（2017）で提案した仮説を修正し⁽¹⁾、主体移動動詞の RE の機能を明らかにすることである。本稿では、使用頻度の高い主体移動動詞 *aller*, *monter*, *partir*, *passer*, *venir* とこれらの動詞に RE を付加した動詞を考察対象とする⁽²⁾。

以下では、第2章で先行研究の指摘に基づき移動動詞を分類し、移動の種類が RE の付加とどう関わっているかを検討する。次に、第3章で *aller* と *venir* を比較対照し、*aller* に RE を付加しづらい要因を明らかにする。従来、*aller* は RE の付加が難しい動詞として挙げられており⁽³⁾、*raller* は辞書に収録されておらず、使用例も稀である。ただし、DUBOIS & DUBOIS-CHARLIER（1997）では「再び行く」ことを表す *raller* が掲載されている。実際、「反復」を表す RE は造語能力が高く（1）のような例が認められた。

（1）Et les «petites gens» reviennent et *revont* avec leurs outils, leurs paquets d'herbe, leurs matelas et leurs cages à oiseaux.

（PRÉVERT, J. 1951, *Spectacle*, 58）

最後に、第4章で *aller* と *venir* 以外の RE の機能を解明するために *repartir*, *repasser*, *remonter* の実例を分析する。

2. 移動動詞の分類

移動動詞の分類については LAUR (1993) と BORILLO (1998) の詳細な記述がある。以下では、第3章以降の分析に関わる動詞が含意する極性 (polarité aspectuelle) に基づいた分類を紹介する⁽⁴⁾。

移動は開始・展開・終了の3つの段階 (phases initiale, médiane, finale) に分けられ、動詞が本質的に何を基準点とするかに応じて次の4つに分類することができる。

(A) 起点動詞 (verbe “initial”)

起点を基準点 (site) とし、そこから移動物 (cible) が移ることを表す動詞 (partir, sortir など)。

(B) 経路動詞 (verbe “médian”)

経路を基準点とし、そこを経て移動物が移ることを表す動詞 (passer, traverser など)。

(C) 着点動詞 (verbe “final”)

着点を基準点とし、そこに移動物が移ることを表す動詞 (arriver, entrer など)。

(D) 多極性動詞 (verbe “pluripolaire”)

状況・文脈によって様々な地点を基準点とする移動を表す動詞 (descendre, monter (起点・着点), dégringoler (起点・経路・着点) など)

一方、前置詞についても次の2つに分類することができる。

(A) 位置を示す前置詞 (préposition positionnelle)

基準点に対し移動物が内部 (接触・内包) または外部 (分離) といった位置関係にあることを表す。前者の例として à, chez, dans, en, sur, sous, 後者の例として devant, derrière が挙げられる。

(B) 方向を示す前置詞 (préposition directionnelle)

極性を持ち、方向を示すと同時に、基準点と移動物の位置関係も表す。de

は「起点-内部」を, par は「経路-内部」を, jusqu'à は「着点-内部」を, vers は「着点-外部」を, それぞれ表す。

最後に, 移動動詞と前置詞の共起関係と両者の組み合わせによってどのような移動を表すかを見てみよう。LAUR は両者の共起関係について次の2つの規則を示している。

(A) 移動動詞 + 位置を示す前置詞

まず, 着点動詞が位置を示す前置詞と共起する場合, 動詞が移動の極性を決定する。一方, 前置詞は基準点に対して移動物が内部か外部かの区別を表す。着点動詞 *arriver* を含んだ (2) は文全体で「着点-内部」の移動を表している。

(2) *Pierre est arrivé à la maison.* (LAUR 1993, 64)

[*arriver* (着点) + *à* (内部) → 着点-内部]

一方, 起点動詞や経路動詞が位置を示す前置詞と共起する場合, 文全体では経路または着点への移動を表す。起点動詞 *partir* を含んだ (3 a) は「着点-内部」の移動を表し, 経路動詞 *passer* を含んだ (3 b) は「経路-内部」または「着点-内部」の移動を表している。

(3) a. *Paul est parti en ville.* (*ibid.*, 58)

[*partir* (起点) + *en* (内部) → 着点-内部]

b. *Paul est passé dans le salon.* (*ibid.*)

[*passer* (経路) + *dans* (内部) → 経路-内部または着点-内部]

(B) 移動動詞 + 方向を示す前置詞

移動動詞が方向を示す前置詞と共起する場合, 前置詞が移動の極性を決定する。(4 a) は *partir* が *de* と共起し, 文全体で「起点-内部」の移動を表している。一方, (4 b) では *partir* が *vers* と共起することで, 「着点-外部」の移動を表している。

(4) a. *Paul est parti de la maison.* (*ibid.*, 53)

[*partir* (起点) + *de* (起点-内部) → 起点-内部]

b. *Paul est parti vers le jardin.* (*ibid.*, 58)

[partir (起点) + vers (着点-外部) →着点-外部]

以上の分類に基づいて、本研究で考察対象とする動詞を分類すると次のようになる：(a) 起点動詞 (partir), (b) 経路動詞 (passer), (c) 着点動詞 (aller, venir), (d) 多極性動詞 (monter)。

どの極性の動詞も RE の付加が可能である。ただし、冒頭で指摘したように aller は RE の付加が難しい。次章では、同じ着点動詞に属する venir と比較対照し、aller に RE を付加しづらい要因を明らかにする。

3. aller に RE を付加しづらい要因

佐々木 (2017) では、remmener と remporter の使用頻度が低い要因を明らかにするために、元の動詞の emmener と emporter の基本義に注目した。まず emmener と emporter を用いる場合、発話者は起点に視点を置き⁽⁵⁾、そこから事行対象を離脱させることを表す。一方、RE を動詞に付加する場合、発話者は移動先に視点を置いていることを指摘した。このように emmener と emporter の語義と RE の付加が両立しがたいため、remmener と remporter の使用頻度が低いことを述べた。

こうした制約は aller に RE を付加しづらい要因にも関わっており、視点を基準とした記述が有効であると考えられる。本章では、aller と venir に関する最近の研究である BRÈS & LABEAU (2012, 2013), PETROSSIAN (2015) や学習参考書の記述を概観し、2つの動詞の基本義を確認する。

以下では、移動主体を X、起点を Z', そして移動先を Z で示す。

従来、2つの動詞は直示動詞 (verbe déictique) に分類され、venir は直示的中心 (centre déictique) への接近を、aller は直示的中心からの離脱を表すとされる。それは両者の Z が次のような性質を持つことに由来する。

まず、venir の Z は発話者・共発話者が現実にあるいは仮想的にいる場所で、そこに X が移ることを表す。

(5) a. *Viens chez moi.*

b. Tu *viens* chez Anne ce soir? (CALLET 2013, 33)

c. Je ne *viendrai* pas chez toi. (BRÈS & LABEAU 2012, 156)

(5 a) は共発話者 (X) が発話者の元 (Z) に移ることを, (5 b) は共発話者 (X) が発話者のいることが見込まれる Anne の家 (Z) に移ることを, (5 c) は発話者 (X) が共発話者の元 (Z) に移ることを表している。

また, *venir* の Z は語りの中で発話者が視点を置く場所である場合もある。

(6) a. Bouchard avait fini son addition. Il sentit l'odeur de son chocolat, quitta son fauteuil de canne, *vint* à la cheminée, toisa le vieil homme, regarda le carrick et fit une grimace indescriptible.

(BALZAC, 1844, *Le Colonel Chabert*, cité par BRÈS & LABEAU 2013, 15)

b. Il marchait auprès des murs. Jamais la vie ne lui avait parue aussi bonne. Elle allait *venir* tout à l'heure, charmante, agitée.

(FLAUBERT, 1856, *Madame Bovary*, cité par BRÈS & LABEAU 2013, 15)

(6 a) は il (X) が発話者の視点を置く暖炉 (Z) に移ることを表している。また (6 b) は発話者が作中人物 (il) の視点を採用して語っているもので, elle (X) が視点人物の元 (Z) に移ることを表している。

一方, *aller* の Z は発話者・共発話者が現実にあるいは仮想的にいる場所以外の場所で, そこに X が移ることを表す。そのことから, *aller* は発話者・共発話者のいる場所からの離脱を含意することになる。

(7) a. Je suis aujourd'hui à Marseille, demain je *vais* à Nice voir Nathalie.

(ROBERT 2002, 6)

b. Tu *vas* chez Anne ce soir? (CALLET 2013, 33)

(7 a) では発話者 (X) が発話現場 (Marseille) とは別の Nice (Z) に移ることを, (7 b) では共発話者 (X) が発話者のいる見込みのない Anne の家 (Z) に移ることを, それぞれ表している。

また, (8) のような特定の人物に視点が制限されていない焦点化ゼロ (focalisation zéro) の語りの中では *aller* が多く用いられる。

(8) Naturellement, la Cibot *était allée* chez Elie Magus pendant le déjeuner de

Schmucke. (BALZAC, *Le Cousin Pons*, cité par BRÈS & LABEAU 2012, 157)
上の指摘から, venir と aller の Z について次の点が確認できた。

(9) a. venir の Z は発話者が視点を置く場所である。

b. aller の Z は発話者が視点を置く場所以外の場所である。

上で述べたように, RE を動詞に付加する場合, 発話者は Z に視点を置く。そのため, RE は発話者が Z に視点を置き X の Z への移動を表す venir と親和性が高い。一方, aller の Z は発話者が視点を置く場所以外の場所であるため, RE の付加と両立しがたいと考えられる。

ところで, monter, partir, passer は aller や venir のような直示的制約が課されず, 各動詞が含意する基準点は発話者・共発話者のいる場所でもそれ以外の場所でもよい。また, これらの動詞の含意する極性は着点以外のものである。そこで, 次章では, 着点動詞以外の RE の機能を検討するために repartir, repasser, remonter の実例を分析する。

4. repartir, repasser, remonter の場合

本格的な議論に入る前に, 元の動詞と RE を付加した動詞の間で前置詞との共起関係が異なることを指摘しておきたい。(10) は元の動詞または RE を付加した動詞と共起する頻度の高い前置詞を示している。コーパスは新聞・雑誌記事 (*Le Monde* 2009-2010 年, *Le Point* 1995-2002 年, *Libération* 2004-2005 年,) および Frantext (1960 年から 2016 年までの作品) から成る。各動詞の上段は新聞・雑誌記事, 下段は Frantext の結果で, () 内の数字は用例数を表し, [] は使用率を表している。à, au, aux を括り À で示し, de, du, des を括り DE で示している。DE に*が付いている場合は大半の例が de . . . à/jusqu'à/en/vers の形式で用いられていることを表している。

(10) 移動動詞が従える前置詞

partir	DE(432) [35%]	pour(403) [32%]	À(225) [18%]	en(153) [12%]	dans(38) [3%]
	DE(2945) [45%]	pour(1579) [24%]	en(964) [15%]	À(944) [14%]	vers(182) [3%]
repartir	À(88) [27%]	en(69) [21%]	vers(66) [20%]	pour(59) [18%]	DE(40) [12%]
	pour(56) [35%]	vers(46) [29%]	À(30) [19%]	en(19) [12%]	sur(7) [4%]
venir	DE(2222) [78%]	À(401) [14%]	en(108) [4%]	dans(78) [3%]	sur(23) [1%]
	À(1569) [36%]	DE(1547) [35%]	dans(551) [13%]	chez(432) [10%]	sur(284) [6%]
revenir	À(1789) [45%]	en(638) [16%]	DE(563) [14%]	sur(490) [12%]	dans(455) [12%]
	À(3944) [53%]	DE(1519) [29%]	sur(695) [9%]	dans(656) [9%]	en(583) [8%]
passer	par(1469) [66%]	À(343) [15%]	DE*(256) [12%]	dans(89) [4%]	sur(65) [3%]
	par(2606) [41%]	devant(1405) [22%]	dans(981) [15%]	À(768) [12%]	sur(664) [13%]
repasser	par(22) [34%]	À(17) [26%]	devant(16) [25%]	sur(9) [14%]	sous(1) [0.1%]
	devant(66) [29%]	par(60) [26%]	À(50) [22%]	dans(39) [17%]	sous(11) [5%]
monter	À(448) [37%]	sur(349) [29%]	dans(315) [26%]	DE(51) [4%]	jusqu'À(40) [3%]
	À(1981) [35%]	dans(1431) [26%]	sur(1166) [21%]	DE(828) [15%]	jusqu'À(225) [4%]
remonter	À(170) [39%]	jusqu'À(93) [22%]	vers(61) [14%]	sur(57) [13%]	dans(51) [12%]
	À(300) [42%]	vers(230) [32%]	dans(211) [29%]	sur(151) [21%]	jusqu'À(125) [17%]

この表から次のことが確認できる。

- (A) venir を除き、それぞれの動詞が同じ極性を持つ前置詞と多く共起している。venir は着点動詞であるが、Z は発話者が視点を置く場所で自明であるため、実際の使用場面では Z' を話題にすることが多く、DE の使用頻度が高いと考えられる。
- (B) RE を付加した動詞は元の動詞と比べ Z を示す、あるいは Z を指向することを表す前置詞との共起が多い。
- (C) RE を付加した動詞は元の動詞と比べ Z' を示す DE との共起が少ない。

以下では、repartir, repasser, remonter の使用実態の分析を通して、佐々木(2017)で提案した次の仮説を修正する。

(11) 発話者は次の発話操作を行う際に動詞に RE を付加する（事行対象 (Y) が Z にあること・いることを「Y-Z」で示す）。

- 発話者は Z に視点を置き、X が Y を Z に移すことを表している。
- 発話者は Y-Z について「元の・本来のあり方」や「妥当なあり方」という評価をあらかじめしている。そして、移動前・移行前のあり方を「仮のあり方」として捉えている。
- X が Y を Z に移すことによって「元の・本来のあり方」や「妥当

なあり方」が実現することを表すために RE を動詞に付加する。

具体的には、まず、発話者が視点を置く場所は Z に限らず、各動詞の含意する極性に応じて異なることを指摘し、発話者があらかじめ行う評価をさらに詳しく記述する。また (10) で見た元の動詞と RE を付加した動詞の間で認められる差異が生じる要因を明らかにする。

4.1. repartir の場合

実例を観察すると、X が Z' から離れることや X が Z に移ることを表す場合に partir を用いることがわかる。(12 a) は共発話者 (X) が発話現場 (Z') から離れることを、(12 b) は闘牛士 (X) が医務室 (Z) に移ることを、それぞれ表している。

(12) a. (Mirabelle と Reinette は同じアパートで暮らしている。起床したばかりの Mirabelle が外出しようとしている Reinette に)

Mirabelle : Tu pars déjà?

Reinette : Oui, je suis même en retard.

(ROHMER, E. 1986, *4 aventures de Reinette et Mirabelle*)

b. Jeudi à Málaga, Jesulín est violemment renversé par son toro. Il part à l'infirmerie, (...) (*Libération*, 2004/8/26)

一方, repartir を用いる場合, Z' に視点を置き, 移動後のあり方 (「X が Z' 以外の場所にいること」) について発話者が何らかの評価をあらかじめしている。そして, X が Z' から離脱することで評価を行ったあり方が実現することを repartir が表すと考えられる。発話者が Z' に視点を置いていることは, 多くの場合, 先行文脈で venir や revenir が用いられていることから確認できる。具体例を見てみよう。

まず, repartir を用いる場合, X の Z' からの離脱を表すことが発話の主眼であるため, (13) のように Z' も Z も表示しないことが多い。事実, 今回用いたコーパスでは Z' と Z が非表示である例が全体の 80% を占めた。

(13) a. -Eh bien, je vous dis au revoir et j'ai été très heureux de vous rencon-

trer, faire votre connaissance . . .

-Ah oui? Excusez-moi. Au revoir. Vous *repartez* immédiatement?

(LAGARCE, J.-L. 1988, *Derniers remords avant l'oubli*, 57)

- b. Nos professeurs sont des civils. Ils viennent donner leurs cours, *repartent*, ignorent tout, ou presque, de la vie que nous menons à l'intérieur de ces murs. (JULIET, C. 1989, *L'Année de l'éveil*, 124)

どちらの例についても、移動前のあり方（「訪問を終えた客 (X) が訪問先 (Z') にいること」、[民間人教師 (X) が士官学校 (Z') にいること]）は「仮のあり方」であり、移動後のあり方（「訪問を終えた客 (X) が訪問先 (Z') 以外の場所にいること」、[民間人教師 (X) が士官学校 (Z') 以外の場所にいること]）は「元のあり方」である。そして X が Z' から離脱することによって「元のあり方」が実現することを *repartir* が表している。

次に *repartir* が Z を従える例を見る。Z は X がその前にいて一旦は離れた場所でも X が初めて移る場所でもよい。前者の例として (14 a) が挙げられ、負傷した闘牛士 (X) が医務室 (Z) に戻ることを表している。また (14 b, c) の Z は X が初めて移る場所で、寄港した船 (X) がシルファ (Z') からジェノヴァ (Z) に向けて発つことを、ユダヤ人迫害から逃れるためにポーランドからフランス (Z') に来た父 (X) がドイツ (Z) に移ることを、それぞれ表している。

- (14) a. Jeudi à Málaga, Jesulín est violemment renversé par son toro. Il part à l'infirmerie, revient en piste en chemise et pyjama sanitaire, tue son toro, et *repart* à l'infirmerie. (*Libération*, 2004/8/26)

- b. -C'est le Toscana, dit Pierre. Il fait le tour de la Méditerranée. Ce soir, il arrive du Caire pour une escale à Chirfa. Demain, il *repart* pour Gênes.

(DÉON, M. 1960, *La Carotte et le bâton*, 163)

- c. Il vient en France parce qu'il a lu un livre de Victor Hugo, *Quatre-vingt-treize*, traduit en yiddish. Arrivé en France, il est déçu : ce n'est pas un pays vraiment conforme aux idéaux de 1789 et le racisme n'y est pas

mort. Mon père *repart* en Allemagne.

(GOLDMAN, P.1975, *Souvenirs obscurs d'un juif polonais né en France*, 26)

いずれの例についても、ZはXがいた元の場所、あるいは目標達成に向けた妥当な場所（周遊の順路、避難先）であることが読み取れる。このことから、移動後のあり方（「負傷した闘牛士が医務室にいること」、「船が次の周遊先にいること」、「避難民が避難先にいること」）を「元の・本来のあり方」や「妥当なあり方」として発話者があらかじめ評価していると考えられる。一方、移動前の場所はXにとって仮の場所であると言える。つまり（14 a）の負傷した闘牛士にとって競技場は仮の場所である。また、（14 b）の地中海を周遊する船（X）にとって寄港地であるシルファは仮の場所であり、（14 c）の迫害を逃れるXにとって迫害されるフランスは仮の場所である。こうした移動前の「仮のあり方」からXがZに移ることで「元の・本来のあり方」や「妥当なあり方」が実現することを *repartir* が表している。

4.2. repasser の場合

実例を観察すると、XがZを経て移動することを表す場合 *passer* を用いることがわかる。（15 a）では人々（X）が発話現場（Z）を経て駅に移ることを、（15 b）は Lucie（X）が自宅（Z）を経てダンス教室に移ることを、それぞれ表している。また、*repasser* のZは（15 c, d）のようにXの元の・本来の場所であることがわかる。そして、そうした場所は発話者が視点を置きやすい場所である。XがZに移ることにより、「元の・本来のあり方」が実現することを *repasser* が表している。

(15) a. C'est une bonne place. Les gens qui vont à la gare *passent* par ici, et on vend bien. (LE CLÉZIO, J.-M. 1966, *Le Déluge*, 112)

b. Lucie devait *passer* chez elle, (. . .), récupérer ses affaires pour les deux heures de danse de l'après-midi (. . .).

(LAFON, M.-H. 2012, *Les pays*, 59)

c. En tout cas, m'a-t-il dit, je connais d'autres histoires comme celles-là, et

j'en apprendrai encore. L'année prochaine, si tu veux en savoir de nouvelles, tu n'auras qu'à *repasser* par ici quand les pommiers fleuriront, (. . .). (AYMÉ, M. 2002, *Nouvelles complètes*, 376)

- d. (. . .), M. Juppé *repassait* chez lui pour se changer et adopter le polo noir seyant au simple citoyen, avant de déjeuner en famille au restaurant de Primrose, (. . .). (*Le Monde*, 1997/5/27)

4.3. remonter の場合

実例を観察すると、X がより高い位置にある Z に移ることを *monter* が表すことがわかる。(16 a) は消防士が火事現場について語ったもので、炎 (X) が発話者達 (Z) に向かうことを、(16 b) は暴風雨の進路を述べる中で、暴風雨 (X) が北 (Z) に向かうことを、それぞれ表している。

- (16) a. On n'était qu'à quelques mètres du feu, on voyait le front de flammes *monter* vers nous, c'est vraiment impressionnant.

(*L'Est Républicain*, 2017/7/30)

- b. Surnommée Frankenstorm, en raison de la proximité avec la fête d'Halloween mercredi, cet ouragan de catégorie 1 se trouvait dimanche matin (vers 11 heures) à environ 420 km au sud-est du Cap Hatteras, en Caroline du Nord, et continuait de *monter* vers le nord parallèlement à la côte à la vitesse de 18 km/h, selon le Centre américain de surveillance des ouragans (NHC), basé à Miami. (*Le Parisien.fr*, 2012/10/28)

一方、*remonter* を用いる場合、発話者は Z に視点を置き、移動後のあり方 (「X が Z にいること」) について「元の・本来のあり方」や「妥当なあり方」という評価をあらかじめしていることがわかる。そして、X が Z に移ることで、そうしたあり方が実現することを *remonter* が表す。まず、Z が X の元の・本来の場所である例を挙げる。

- (17) Lorsque la mine s'est effondrée, le jeudi 5 août, à la mi-journée, «les 33» s'apprêtaient à *remonter* à la surface pour déjeuner.

(*Le Monde*, 2010/10/28)

移動後のあり方（「炭鉱労働者（X）が地上（Z）にいること」）は「元の・本来のあり方」であり、移動前のあり方（「炭鉱労働者が地下にいること」）は「仮のあり方」である。

次に、Z が目標に照らして X がいる妥当な場所である例を見てみよう。

(18) a. (ニューヨーク同時多発テロに遭遇した発話者が Melissa と再会した時の状況を語っている。発話者の働くミッドタウンは Melissa の働く 14 丁目より北に位置する。) Je travaille à midtown, et quand la deuxième tour est tombée j'ai commencé à descendre vers la 14 e Rue, où travaille Melissa. Pendant ce temps, elle *remontait* vers le nord, avec le flot de la foule. (*Le Point*, 2001/10/26)

b. (マルセイユの伝統的漁法について) Bateau arrêté, on appelle le poisson en jetant à la mer des sardines broyées et du pain. Cela fait comme une plaque huileuse, que le courant transporte. Quand le poisson, qui nage à contre-courant, rencontre cette odeur, il *remonte* vers le bateau. (Izzo, J.-C. 1996, *Chourmo*, 100)

(18 a) は Melissa (X) が北 (Z) に向かうことを、(18 b) では魚 (X) が漁船 (Z) に向かうことを、それぞれ表している。どちらの例についても Z は発話者が視点を置いている場所であることが文脈から読み取ることができる。(18 a) の Z は発話者のいる場所であり、(18 b) は Z からの描写であり、発話者は Z に視点を置き X の移動を描写している。そして、目標（再会、漁獲）に照らせば、Z は X がいる妥当な場所で、移動後のあり方（「Melissa が発話者近辺にいること」、「魚が漁船近辺にいること」）を「妥当なあり方」として、一方、X が Z 以外の場所にいる移動前のあり方を「仮のあり方」として発話者が評価している。

ここまで挙げた例については、一貫して Z は X の元の・本来の場所、または、目標に照らして X がいる妥当な場所であるという説明を与えることができる。ところが、(19) の Z はそうした場所に該当しない。(19 a) はオオカミ

(=la bête) (X) が発話者 (Z) に向かうことを, (19 b) はアフリカミツバチ (X) が北 (=アメリカ) (Z) に向かうことを, それぞれ表している。このように X の Z への移動を発話者が危惧していることを表す文脈でも *remonter* を用いることがある。

- (19) a. (オオカミに遭遇した時の状況を語ったもの) *La bête remontait vers moi, en contrebas. Elle est passée sous des barbelés puis a ralenti le rythme comme si elle avait senti ma présence. Elle était tout près, à cinquante mètres, pas plus . . . (Midi Libre, 2009/2/1)*
- b. (アメリカが外来危険生物の危険にさらされてきたことに関する記事) *Depuis Christophe Colomb, 4 500 animaux et plantes exotiques, dont 1 500 insectes, ont déferlé sur les Etats-Unis. (. . .). En Amérique du Sud, elle (=l'abeille africaine) a déjà causé la mort de milliers de têtes de bétail et de nombreuses personnes. Chaque année, le front remonte vers le nord de 500 kilomètres. Aujourd'hui, elle a commencé l'invasion des Etats-Unis. (Le Point, 1995/5/13)*

この例の Z も発話者が視点を置いている場所であることが文脈から読み取ることができる。(19 a) の Z は発話者のいる場所である。また, (19 b) は先行文脈でアメリカの外来危険生物の歴史について, 後に続く文脈では, アメリカでアフリカミツバチの侵入が確認されたことについて言及されている。このように, 文脈全体がアメリカからの描写であり, 発話者が視点を置いていることがわかる。そして, 移動後のあり方(「オオカミが発話者付近にいること」, 「アフリカミツバチがアメリカ近辺にいること」)を「憂慮すべきあり方」として, 一方, そうしたあり方が未実現の移動前のあり方を「仮のあり方」として発話者があらかじめ評価していると考えられる。

5. おわりに

本稿では, 主体移動動詞の RE の機能を明らかにするために, 第2章で, 含

意する極性に応じて移動動詞を起点動詞，経路動詞，着点動詞，多極性動詞の4つに分けた。次に第3章で *aller* に RE を付加しづらい要因を同じ着点動詞に属する *venir* と比較対照することにより明らかにした。まず，*venir* の Z は発話者が視点を置く場所であり，*aller* の Z は発話者が視点を置く場所以外であることを確認した。そして，RE を動詞に付加する場合に発話者は Z に視点を置くため，RE を *venir* に付加することは問題ないが，*aller* に付加することは難しいことを指摘した。第4章で，着点動詞以外の *repartir*，*repasser*，*remonter* の実例を分析し，発話者が次のような発話操作を行う際に RE を動詞に付加することを明らかにした。

- (20) a. 発話者は各動詞の含意する極性（*repartir* は起点，*repasser* は経路，*remonter* は着点）に視点を置き，X の移動を描写する。
- b. 発話者は移動後のあり方を「元の・本来のあり方」や「(目標に照らして) 妥当なあり方」または「憂慮すべきあり方」としてあらかじめ評価している。そして，移動前のあり方を「仮のあり方」として捉えている。
- c. X が Z' を離脱することや，Z を通過すること，あるいは，Z に接近・到達することにより「元の・本来のあり方」や「妥当なあり方」または「憂慮すべきあり方」が実現することを表す際に RE を動詞に付加する。

このように，RE を動詞に付加する際に，発話者の関心は移動後のあり方に向けられている。そのため，(10) で見たように，RE を付加した動詞は元の動詞と比べて Z を示す，あるいは Z を指向することを表す前置詞との使用が多く，一方，Z' を示す DE との使用が少なくなるのである。

注

- (1) *re*, *r*, *ré* をまとめて RE と表記する。
- (2) フランス国民教育省作成の現代フランス語において使用頻度の高い語彙の表 (eduscol.education.fr/cid50486/liste-de-frequence-lexicale.html) を参照した。このサイトには現代フランス語で使用頻度の高い 1500 語が掲載されており，そのうち

動詞は 421 語である。

- (3) FRANCKEL (1997) は RE を付加することができない動詞として, *aimer* や *savoir* のような状態動詞の他に *aller*, *cesser*, *finir*, *agrandir* を挙げている。
- (4) 他の分類基準として次の 2 つがある。
- (A) 基準点に対する移動物の位置関係 (*relation de localisation*)
 基準点に対して移動物がどのような位置関係にあるかに応じて, 次の 2 つに分けられる。
- (a) 内部動詞 (*verbe "interne"*): 基準点に移動物が接触していること (*contact*) や内包されていること (*inclusion*) を表す動詞 (*sortir*, *arriver*, *passer*)。
- (b) 外部動詞 (*verbe "externe"*): 基準点から移動物が離れていること (*disjonction*) を表す動詞 (*s'éloigner*, *s'approcher*, *graviter*)。
- (B) 基準点と移動物の位置変化 (*changement de lieu de référence*)
 移動の前後で基準点と移動物の位置に変化が生じるか否かというものである。変化が生じる動詞として *sortir* が挙げられる。一方, 変化が生じないものとして *s'approcher* が挙げられ, 移動後でも基準点と移動物は離れたままである。
- (5) 以下で述べる「視点」とは, 澤田 (2011) の「直視的視点」を指す。「直視的視点」とは次のように定義される。
 事物や事象を描写する際に, 話し手 (より一般的には, 認知主体) が占めている空間的・時間的・心理的・社会的・談話的な位置。(澤田 2011, 167)

主要参考文献

- BORILLO, A. (1998), *L'espace et son expression en français*, Paris, Ophrys.
- BRÈS, J. & LABEAU, E. (2012), "De la grammaticalisation des formes itive (*aller*) et ventive (*venir*): valeur en langue, emplois en discours", L. de Saussure et A. Rihs (eds) *Études de sémantique et pragmatique françaises*, Peter Lang, 143-165.
- BRÈS, J. & LABEAU, E. (2013), "*Aller* et *venir*: des verbes de déplacement aux auxiliaires aspectuels-temporels-modaux", *Langue française* 179, 13-28.
- CALLET, S. (2013), *Répertoire des difficultés du français – Vérifier, comprendre, appliquer*, Presses universitaires de Grenoble.
- DUBOIS, J. & DUBOIS-CHARLIER, F. (1997), *Les verbes français*, Paris, Larousse.
- FRANCKEL, J.-J. (1997), "Approche de l'identité d'un préverbe à travers l'analyse des variations sémantiques des unités préverbées", *French Language Studies* 7, 47-68.
- LAUR, D. (1991), "La relation entre le verbe et la préposition dans la sémantique du déplacement", *Langages* 110, 47-67.
- PETROSSIAN, M. (2015), "Verbe de déplacement et effet de subjectivisation", *Nouveaux cahiers de linguistique française* 32, 187-201.

ROBERT, J.-M. (2002), *Difficultés du français. Des clés pratiques pour éviter et expliquer les pièges du français*, Paris, Hachette.

佐々木香理 (2017) 「接頭辞 RE の機能－ramener/rapporter と remmener/remporter の場合」『フランス語学研究』51, 1-21.

澤田淳 (2011) 「日本語のダイクシス表現と視点, 主観性」澤田治美編『ひつじ意味論講座 5 主観性と主体性』ひつじ書房, 165-192.

(文学部非常勤講師)